

# 預けはじめに乳児の突然死が多いのは何故か？

マザーズ・かみすぎ保育園 園長 三浦 えみ子

参考 ○内閣府HP ○多摩北部医療センターHP

- 内閣府のまとめでは、保育施設に預けられた乳幼児が睡眠中などに突然死亡する「突然死」は2016年までの10年間に146件報告。
- このうち事故などのケースを除く43件を、多摩北部医療センター小児科の小保内俊雅部長らの研究グループが分析。
- その結果、全体の30%が預けはじめから1週間以内のごく初期に起きていて、1か月以内に起きた突然死は全体の半数。

## 突然死 登園開始からの期間



# 沖縄の乳児死亡「業務を怠った」と園長 10分おきの呼吸確認せず 職員「何か変だ」と報告も



男児がいた場所に手向けられた花や菓子＝5日、那覇市楚辺の「緑のすず乃保育園」

沖縄県那覇市の認可外保育園「緑のすず乃保育園」で7月30日昼ごろ、預けられていた生後3カ月の男児が心肺停止の状態になり、搬送先の病院で死亡した問題で、園長の女性が5日、沖縄タイムスの取材に応じた。園長は、乳幼児に求められている10分おきの呼吸確認をしていなかったことを明らかにし、「男児や遺族に申し訳ない」と語った。(社会部・矢野悠希) [【写真】保育中になぜ…](#)

- 研究グループでは、この預けはじめの突然死について、**新たな環境への適応困難が要因**になっている可能性を指摘。
- 小保内部長は「子どもは成長とともに新しい環境に順応する力をつけていくが、その**経験が少ない3歳未満の子どもにとっては、保護者から離れて1人で保育園に入ることが、想像以上の大きなストレスになっていると予測。**
- 突然死の半数が起きている**預けはじめの1か月については、特に注意が必要だ」と警鐘。**

# アメリカでも同様の報告

○乳幼児の預けはじめの時期の突然死の危険性は、**アメリカの研究でも報告。**

○アメリカ小児科学会の2008年の報告によりますと、親以外の保育の環境下で起きた乳幼児の予期せぬ突然死の内**およそ3分の1は1週間以内に発生。**

○更にそのうちの**半分は、預け始めた初日に起きている。**

アメリカでの研究ではなぜ**預け始めの時期に突然死が起きやすいか、理由ははっきりしない**ととしているが、慣れない環境やうつぶせ寝などが少なからず影響していると見ている。

- これらの事から、預け初めに突然死が多いのは、理由をはっきりしないが、**新しい環境が、子どもへの大きなストレスになるのが要因と予測。**
- 預け初めの**突然死を防いでいくには、救命率を高める為にも、乳児の就寝中には「5分毎のチェック」**は欠かさない事、また**当日の乳児の体調に十分配慮する事が大切。**
- 更に、**預け初めの保護者にも、リスクがある事を話し、乳児がストレスにならないような慣らし保育や職場からの協力を求める等、社会全体で防いでいくように考えて行く事**が求められる。